先進校に学ぶキャリア教育の実践

自己と社会がつながる課題研究を通じて "模範解答"から脱し、自ら考え行動する人へ

仙台南高校

(宮城・県立)

キャリア教育と課題研究を2本柱とする、仙台南高校の「公孫樹プログラム」。 社会の現実に触れる活動を軸に、生徒の主体的な思考や行動を促し、 一人ひとりがもつ可能性を存分に伸ばしていこうと改善が重ねられています。

取材·文/藤崎雅子

実践のKeyword

Q、総合的な探究の時間 Q、キャリア教育と探究の融合 Q、地域連携 Q 大学との連携 Q ルーブリック評価 Q SDGs

活動が必要か議論を積み重ね、課題研 のか、その力を育むためにはどのような こで、先々の人生にはどんな力が必要な 調べ学習に近い形で、生徒の取り組み状 究とキャリア教育を2本柱とするプログ 況にも差があるなどの課題があった。そ プで課題研究には取り組んでいたが

以前の総合的な学習の時間でもグル

2本柱で総探を見直し 課題研究とキャリア教育の

同校の新たな特色として注目されてい 間で展開している「公孫樹プログラム」が の幅広い地域から生徒を集める仙台南 活発な文武両道の進学校として、県内 高校。1~3学年の総合的な探究の時 仙台市内の好立地にあり、部活

称がつけられている(図2)。 グラムの特徴と重なることから、この名 を横断的に活用して取り組むというプロ り、その葉の形は、各教科で学んだこと トした(図1)。公孫樹は同校の校木であ の育成を目指し、2020年度にスター 課題の発見と解決に必要な資質・能力 生き方を考えながら、適切で論理的 公孫樹プログラムは、自己の在り方

その代表的な取組といえる。 重点を置いており、公孫樹プログラムは 資質・能力の育成や、在り方・生き方にも るのではなく、その先の人生を見据えた 高校卒業後の進路実現だけを焦点とす 改訂や入試改革などの動向を踏まえて 同校では数年前より、学習指導要領

社会からのフィードバックが

が必要です」(小野寺先生

して、社会の現実から刺激をもらうこと

生徒の力を開放する機会に では、具体的にどんなプログラムを展

こう話す。 るようなタイプが多いです」(小野寺先 より、メンバーをもり立ててバランスを取 も多いのですが、ぐいぐい引っ張るという ちの良い子たちばかり。リーダー経験 時間運営委員会の小野寺智弘先生も が好い」と口を揃える。総合的な探究の

「優しくて、気遣いができ、本当に気持

出すのは得意。しかし、社会ではその 求められる答えを察知し、、模範解答、を ャレンジしようとする姿はあまり見られ 歩先が求められるのではないか」と話す。 員会の飯塚大樹先生は、「生徒たちは か」といった課題感があったという。 同委 学校は十分に伸ばせていないのではない ず、「伸びしろの大きい生徒たちの力を そこで、プログラム改変の軸となったの 一方で、言われた以上のことに自らチ

収まらないよう、もっと生徒を地域に出 らこそ、その居心地の良いなかで小さく は、「生徒をもっと地域に出そう」だ。 人の好い生徒同士みんな仲が良い。だか

ラムに改変し取り組んでいるのだ。

もっと地域に出そう 小さく収まりがちな生徒たちを

同校の生徒の特徴について、教員は「人



School Data

TEL 022-246-0131

1977年設立/普通科 生徒数836人(男子374人·女子462人) 進路状況(2022年3月卒業生) 大学249人·短大2人·専門学校等11人 就職1人・その他7人 宮城県仙台市太白区根岸町14-1

Outline

校訓に「英知」「調和」「自律」を掲げ、開校以来「生 徒一人ひとりの個性を開発し、その充実を目指す教 育」の実践に取り組んでいる。2020年度よりキャリア 教育と課題研究を2本柱とした「公孫樹プログラム」を 総合的な探究(学習)の時間にて展開。2021年度に 第14回キャリア教育優良教育委員会、学校及び PTA団体等文部科学大臣表彰受賞。



総合的な探究の時間運 営委員会·3学年担任 飯塚大樹先生



総合的な探究の時間運 営委員会·2学年担任 小野寺智弘先生

図2 公孫樹プログラムのイメージ



図1 公孫樹プログラムの目標と目的

探究の見方・考え方を働かせ、地域や社会の人、もの、ことに関わる総合的な学習を行うことを通して、自 己の在り方生き方を考えながら、適切で論理的な課題の発見と解決ができるようにするために、以下の資 質・能力を育成する。

- ▶ (1)地域や社会の人、もの、ことに関わる探究の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を 身につけるとともに、地域や社会の特徴やよさに気付き、それらが人々の関わりや協働によって支えら れていることに気付く。
- ▶ (2)地域や社会の人、もの、ことと自分自身との関わりから問いを見いだし、その解決に向けて仮説を 立てたり、調査して得た情報を基に分析したりする力を身につけるとともに、論理的にまとめ・表現する
- ▶ (3)地域や社会の人、もの、ことについての探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよ さを活かしながら、持続可能な社会を実現するために行動し、社会に貢献しようとする態度を育てる。

図3 公孫樹プログラムの取組概要

1学年

「自分自身の生き方や在り方を考える」

~地域課題と自分の生き方を結ぶ~

前半は探究スキルや先輩の人生を学び、後半は地域課題プログ ラムとして近隣の企業・団体(約10)が提示する地域社会の課 題について解決方法を考える。

2学年

「自分自身との関わり合いと問い」

~課題の設定・仮設・実証そして発表~

研究したいテーマに個人で取り組む。「課題の設定」「情報の収 集」「整理・分析」「まとめ・表現」のサイクルで探究学習を進める。

3学年

「白分白身と持続可能な社会」

~課題研究とSDGsをつなげる~

1年生での地域課題プログラム、2年生での興味・関心を基にし た課題研究をふまえ、Global and Localな視点から持続可能な 社会の実現に向けて自分に何ができるのか、考えをまとめる。

提 提供してもらい 寸 年後 オー その解決策にグループ 半では ナし として課 地 域の 題 約 を 10

いの 応を基に. 巫 ラヒカル 前半の。 る 究手 んめに必要な力について考えさせる 思い描くとともに、 を 3 作り 姿 飯 から 直 法の習得に加 プログラムは ル人生の 方や 毎 設 (塚先生) 定。 年調整している。 生徒が自分の 課題の本質の 先輩に いきいきと働) と の 前 その え 聞 考えから 年 Ś 新たに 一度の生 将来の生き方 ような 繰り 22 年 ع 社 題 方など、 キラ 会人た 徒の する 将 度 学 講 ¥ 問 反 车

域

根差 転

取り

組む企業からの

取

材しラジオ番組を

作

:成する」、

地

自

車

安全マップづくり_ した活動に

などさまざま

生徒

には学

校

内外での ラジオ番

情報収

集や

調

行いながら , 作成などの

組制

作や

安全

課

題

一解決のアクション

取り そのプロ 組

色が変わる瞬間が において、 中 -間発表でオー 多く 生 徒 0 Ħ いる。 きる体制にすることで、ハードルを下 課題 切り !設定でつまずくことなくスタ 、グループで助け合うことがで 初めての探究活動となる げて

から見ていこう で取 組 む

図 3

しているの

か

1

· 学

年

3年

-間の活

動

が

有

意

一義に

になる

最

初のマインド

セツ

が大きく

左

右

からの

「集客力・

販売力を高めるには」

元ラジオ局

からの

地

地域の

課

に題を見つ

取り

組

む

課

い題 は、

例

えば、

地

元商

店



2年生の課題研 究の成果を、ポ スターセッション 形式で発表。

からアドバイスをもらうときと、最終

問研究に取り

生徒が設定するテーマは、「地域で使

や取組の浅さを思い知ることになる。 いないグループも多く、自分たちの考え けて?」など、踏み込んだ質問が容赦な つ?」「どこで?」「どれぐらいの費用をか 生徒の発表に対し、オーナーからは「い 発表でオーナーから講評をもらうときだ。 く飛んでくる。そこまで具体的に考えて

解答、が社会では通用しないことに気づ し始めるようです」(飯塚先生) 「誰かに言われてやるのではなく、 「オーナーとのやりとりのなかで゛模 、それぞれがもう一段深く考えようと 自

> 員など1人がマスター(アドバイザー)と 団の教員が担当としてつくほか、大学教 ス横断でグルーピング。各分野には学年 築」など16種類程度の学問分野に、クラ

して参加。マスターは、テーマ設定、中間

から動かないと何も進まないのだと、 徒は少しずつ認識するようになります」 (小野寺先生) 生

組内容に対する専門的な助言を行う。

授業中は個人の活動が中心で、

図

視野を広げるための講義や、各生徒の 発表、最終発表といった節目に来校し、

館で調べものをしたり、理科室で実験し

たり、学校外でフィールドワークを行った

やりたいことから問いを見いだし、個人で 探究プロセスを学ぶ 各自の興味関心を基に 2学年では、個々の興味・関心や将来

の大きな役割は、生徒の、壁打ち、になる

める。そのなかで各分野を担当する教員

各自が自分の計画に沿って活動を進

大学教員のアドバイザーから、その学問分野についての講義を受け る2年生。後半は質疑応答や相談の時間に。

公孫樹プログラム 中間発表フォーム ・発表時間は異観応答を含めて5分。 ・この掲載を使って発表することを基本とするが、希望する場合は固やスライドを使って発表することも可能とする メディアからいらに、 世界中の子やもたち、 歩きの子がのソ(エあまのか)。 BORNAM
FABLE TO THE BASE AND FOR FABLE TO THE BASE AND FOR FABLE TO THE BASE AND FOR FABLE TO THE BASE AND FABLE TO THE BASE AND FABLE TO THE BASE AND THE BASE A 子まど(4.1%)

Tutter (50.2%) , Jusagem (44.5%)

2-548((54.5%) , Jusagem (44.5%)

2-548((54.5%) , 1-24.5% (47.5%)

(2-548((54.5%) + 12.5%)

(2-548((54.5%) + 12.5%)

(4.15%) (4.15%)

(4.15%) (4.15%)

(4.15%) (4.15%)

(4.15%) (4.15%)

(4.15%) (4.15%)

(4.15%) (4.15%)

(4.15%) (4.15%)

(4.15%) (4.15%)

(4.15%) (4.15%)

(4.15%) (4.15%)

(4.15%) (4.15%)

(4.15%) (4.15%) . Actions " Some the Children 1 ・実難を深く知らない人の方が多い? → まずは 矢の・さもううことが 大ea なの、ももらうには、 素のたち 高利性に 最も 事迹なる手をか 1 3 2 9 6 Twicte

課題研究では、フォームに沿って「調べた内容・文献調査」「仮説」 「実証方法」「実証の結果」などの情報を整理していく。

次に活かす力を育む 適切に自己評価し

力・仮説設定力) ||資料収集の計 学年では「課題と仮説の設定(課題発見 像力」「探究力」「表現力」の4つの力 己評価を行う。1学年では「思考力」「想 1・2学年の公孫樹プログラムでは 生徒が各自の取組を振り返り自 画 年

も多いようです」(小野寺先生) 分の考えをまとめる手助けになること うして生徒の言葉を引き出すことで、自 な感じ?』と声を掛けることも大切。そ ない場合もあるので、『どうよ?』『今どん が 生徒からの相談に乗るのはもちろんです 出す、かまう」)ことをお願いしています。 どん、すっかける、(方言で「ちょっかいを また、節目には生徒間の意見交換の 、煮詰まってどう相談していいかわから

> と面談して確認、調整する(図4)。 ックのチェック表を用いて考え、担当 それらの到達度について、生徒はルーブリ

この自己評価のねらいの一つは、

生

探究活動を生徒自身で進める経験を、 り入れながら、テーマを深めていく。 時間も設定。他者の客観的な視点 こうして課題の設定から解決までの を取

てほしいと思います」(飯塚先生) て身につけた力やスキルを活用していっ ーマを見つけたときに、この活動を通じ は一生もの。生涯をかけて探究したいテ んが、探究のプロセスを学んだという経験 実際の進路につながるわけではありませ 悪し以上に大切にしている。 「2学年で取り組んだテーマが必ずしも

ど多彩だ。これらを「経済」「国際」「建 ェンダーに関する差別はなくせるのか」な ちを救う手掛かりはあるのか」「日本のジ

「メディアやSNSに世界中の子どもた われるオノマトペと気候は関係するのか」

同

『校では最終的な発表や成果物の良し

とで、もっと自信をもって突き進む力に

たことがあれば堂々と認めて評価するこ

してほしいと思います」(小野寺先生)

向があります。しかし、やったこと、でき

を控えて、いい塩梅に収めようとする傾

「生徒は自分が周囲より突出すること

る場合が多いという。

がちで、教員との面談を経て上方修正 にすることだ。生徒は自身を過小評価 が自身の取組を適切に評価できるよう

とで、 につけることもねらいとしている。 に考え、改善していくというサイクルを身 また、年2回同じ観点で評価を行うこ 、次の活動への取り組み方を主体的

考えて調整していく力を育んでほしいで すね」(小野寺先生) らのステージを上げていけるのか、自分で 分を適切に評価し、そしてどうすれば自 評価を次にどう上げるかが重要です。自 あまり大きな問題ではなく、最初の自己 「その時点でどれだけ到達しているかは

何のために 大学へ進むの

踏まえ、持続可能な社会の実現に向 3学年では、1・2学年までの活動 ことだ。

「先生方には、生徒のなかを回って、どん

理的思考力) 」「研究成果の発表(情

断力・読解力) | 「論理の構成(考察力・ 実施(計画力・実証力) | 資料の分析

整理力・表現力)」の5つの観点を設定

「思考力」「想像力」「探究力」「表現力」の4点についてのチェック表を用い、中間発表 時と最終発表時に生徒が自己評価を行う。下記シートは「思考力編」のみだが、他のチェ ック表はダウンロードサイトより入手可能。

公孫樹プログラム 到達度チェック表【思考力編】

	中間発表		最終発表		評価基準
達成度(S~Cランクの横に〇をつける)			s		自分たちの解決法を、 客観的に検討しようとする姿勢が見られる。
			Α		適切な情報を用いて、 筋道だった思考の過程の論が立てられている。
	s		В		適切な情報を用いて、 筋道だった思考の過程がある程度分かる。
	А		С		適切な情報を用いて、 筋道だった思考の過程が部分的に分かる。
	В				適切な情報を用いて、 筋道だった説明をしようとする試みが見られる。
	С				地域課題解決の構成が論理的でなく、 思考の過程が分からない。

社会のどんな課題の解決につながるのか 〉枠組みを使って、将来やりたいことが 具体的には、SDGSについて学び、そ す」(飯塚先生

を考えるきっかけになればと考えていま

、社会のリアルに目を向けて、

、将来

ついての考えを大学志望理由書「私の での活動の延長にある進路と、社会をつ 理由書という形式を使うことで、これま 学入試に使用するわけではないが、 む道」としてまとめる。これを全員が大 を考えたうえで、自分の将来像や進路に なぐことがねらいだ。 、志望

ついていない生徒も少なくありません。例

「将来やりたいことと、

社会課題が結び

向けて、今後の在り方・生き方を考えて てどのように貢献していくかにも意識を

をめぐってどんな問題があるのかをあま えば、保育士を目指しているが、保育所

知らないことなどがあります。この活

を希望しますが、なぜ大学に行くのか、 えで進路選択してほしいと願っています」 大学で何をするのか、 (飯塚先生) 「本校ではほとんどの生徒が大学進学 しつかり考えたう

意志ある進路選択が増 主体的な行動や

加

目。さまざまな場面で、生徒の意欲や行 動の変化が見られるという。 公孫樹プログラムでの取組では、 公孫樹プログラムがスタートして3年 角分

考え、意志をもって進路選択するように なってきたのではないでしょうか」(小野 生きるか、どう社会と関わっていくかを 徒も少なくありません。自分が将来どう 入学時に考えていた進路を変更する生 「公孫樹プログラムがきっかけで、 高

ずつ増えています」(飯塚先生)

以上のアクションを起こす生徒が なりに工夫をこらし、こちらが期待した

> 善を重ねてきたことは、 小野寺先生

後も公孫樹プログラムの価値を学校全 状況を見ながら公孫樹プログラムの改 としての引き出しが増えた」(飯塚先生) 心として、毎年、生徒たちの反応や取 総合的な探究の時間運営委員会を中 教員の学びにもつながっている。 一大変だが、教員

の突破につながっているのかもしれません になったことが、一般選抜を含めた目標 来に向けた腹のくくり方が変わったこと 合型選抜に活かせているだけでなく、将 「興味関心から取り組む課題研究が総 、自分の可能性を信じて挑戦するよう

て ています。

ていく方針だ。 体で共有し、取組をバージョンアップさせ

か…公孫樹プログラムに関わるなかで、 うより、一人の人間として尊重して、 ち上の世代にはない発想や考え方をもつ 可能性を存分に伸ばしていきたいと思い ます」(飯塚先生) にできることには限りがあることも認 その思いが一層強くなりました。一教員 に歩んでいくことが教員の役割ではない 「新しい社会を生きる生徒たちは、 外部の協力も得ながら、生徒たちの 生徒たちを引っ張っていくとい 共

Interview

おいても過去最高が更新され続けている いて、総合型選抜と一般選抜のどちらに

また、このところの大学合格者数にお

の取組もあると考えられている。

その要因の

一つに公孫樹プログラムへ

「できない」と諦める前に行動してみよう

2年生のとき、課題研究で「高校英語の模擬授業を考える」というテーマで、自分で考え た授業を実際に自分のクラスで実施してみて、気づいたことをまとめるという取組をしまし た。いろんな文献を参考にしながら授業室やワークシートを作成して、ペアワークからの気 づきを大切に実施したところ、みんなから「わかりやすかった」という感想をたくさんもらい、 すごく嬉しかったです。1年生のとき、先輩の研究内容を聞いて「自分にはこんなすごいこ とできないよ」と諦めの気持ちがあったのですが、やる気次第で自分にできることが広が っていくんだな、と気づきました。諦める前に、誰かに相談するなどして、自分で行動してみ ることを大切にしていきたいと思います。

(3年生・熊倉真由子さん/写真右)

研究テーマを今後も追究していきたい

課題研究では、化粧水の成分とpHの関係性をテーマにしました。理由は、単純に化粧 品が好きで、どんな成分にどんなメリットがあるのか気になっていたからです。薬剤師の叔 母に皮膚疾患について教えてもらったり、関連する論文を紹介してもらったりして知識を インプットし、また、成分によってpHがどうなっているのか、友達から集めた10種類ぐらい の化粧水のpHを測定器で調べたりしました。新たな発見も多く、興味のあることを調べる

うちに、関連した別のことも知りたい、と興味がど んどん広がっていきました。課題研究では、知りた かったことのすべてがわかるまではできなかったの で、大学進学後もこのテーマの追究を継続し、自 分なりのアイデアを活かして新しいものを生み出 せたらと思っています。



(3年生・渡邉紗彩さん/写真左)